光道園・職員研修会の報告～歩行訓練～

社会福祉法人　光　道　園
指導企画室　真家　徹

〔はじめに〕

日本ライトハウスにて行なわれている「視覚障害者歩行指導員養成講習会」に、昭和50年度、中山、真家の２名が、次いで51年度には、柳田が参加し、３名の歩行指導員が、寮生の、移動・行動を安全かつ円滑に行なえるための統一した方式で指導、訓練が実施されている。

と共に、作業訓練や他の指導、訓練も徐々に整備され、歩行訓練が、単なる技術指導だけに終らないように考えられてきた。

当園の寮生は、種々の障害を重ね持つ、盲重複障害者が大多数をしめているが、他の障害(肢体等）を含めると、360余名が現在入所している。

将来、光道園独自の福祉工場新設を目差す上で、寮生の指導、訓練等のカリキュラム及び指導書作り、調査等が急がれている。

障害程度、指導の内容等によって、７つの課に分かれているが、広い意味で、歩行は障害にかかわらず人として生活する以上考えられねばならないことであり、その意味から、全寮生を対象と考えているが、時間的なこと、指導員の数など限界があると共に、日常生活の生活状態を常に見られる各課の職員が歩行訓練的見地からも指導できれば、寮生の生活向上、能率性もはかれるのではないか……等から、53年度、吾々３名が中心となり、各課少なくとも１名の専任歩行指導員を養成し、歩行訓練の幅広い考え方、指導方法の整理につながるように職員講習会が決定した。

各課の実情、内容等も考慮し、次のように実施された。

〔実施内容〕

講習会の具体的な方法については、全職員対象案、一年計画とかが考えられたが、週２回、３時から５時までの時間帯を利用し、各課（寮生のいる現場７課及び保健課から）１名づつ計８名の専任職員を決め、その実施については、歩行訓練士の中山、柳田、真家の３名が原案を作成した。

その間、園長中道益平の急死という悲しみにあったが、先生の意志を受けつぐ為にも、この計画を実施しようということで実際に５月後半から54年２月まで行なわれた。

内容については、日本ライトハウスでの全ての伝達と、その中に、吾々３名の光道園での実践を生かし、とり入れるという形式で、８名の職員にアイマスクをして単独歩行できる歩行能力を体験会得してもらい、翌年度実際に寮生指導に参加してもらうという計画ですすめられた。教科書として、日本ライトハウス発行の「視覚障害者のためのリハビリテーションⅠ、歩行訓

練」を使用した。

尚、種々に渡るところで、日本ライトハウス歩行主任、芝田裕一氏に御意見を頂き、御指導を賜わった事を付記し、感謝の意を表する次第である。

〔参加者〕

（昭和53年度職員研修生名）

高山　里美	光成センター
髙田　涼子	ワークセンター
津田　佳子	更生指導課
五十嵐雅重	生活指導課
渡辺　克郎	スターホーム
青山　省司	ヘレンホーム
鳥山　正人	ローンホーム
鷲田　幸子	保健衛生室

（研修会講師名）

中島　昭美	東京水産大学教授
芝田　裕一	日本ライトハウス歩行主任
山内　　進	光道園・更生指導課課長
清水とみ子	光道園・保健衛生室室長
淵辺　信俊	〃　スターホーム主査
中山　集次	〃　授産管理室
山本　康江	〃　指導企画室
鷲田　陽子	〃　〃

（敬称略）

（研修会及び実習責任者）

柳田　佳孝	光道園・更生指導課
真家　　徹	〃　指導企画室

27	8	23	1：00～5：00	実技・園近辺の歩行
28	〃	24	〃	〃 ・園近辺の歩行及び信号の横断
29	〃	25	〃	〃 ・神明駅まで
30	〃	28	3：00～5：15	〃 ・園から神明駅まで
31	9	1	3：00～5：00	講演（東京水産大学教授　中島　昭美先生）
32	〃	4	〃	ワークセンターの歩行訓練（中山先生）
33	〃	9	3：00～5：30	実技・園から神明
34	〃	11	3：00～5：00	アゼリア近辺の歩行，交叉点の歩行
35	〃	18	〃	神明近辺の歩行
36	〃	25	〃	〃
37	10	2	〃	〃
38	〃	6	3：00～5：00	五十嵐，鳥山　モデル歩行
39	〃	9	〃	渡辺，高田　〃
40	〃	13	〃	高山，青山　〃
41	〃	16	〃	鷲田，津田　〃
42	〃	20	〃	神明近辺の歩行
43	〃	23	〃	〃
44	〃	27	〃	バスの乗降訓練及びアゼリア内歩行　小泉 ↔ 神明
45	〃	30	〃	
46	11	4	3：00～6：30	田舎道の歩行（今立町横住）
47	〃	6	3：00～5：00	電車の利用　神明 ↔ 鯖江
48	〃	10	〃	〃
49	〃	13	〃	神明近辺の歩行
50	〃	17	〃	〃
51	〃	20	〃	神明近辺のオリエンテーション
52	〃	24	1：00～5：00	ドロップオフ　1班
53	〃	27	〃	〃　2班
54	12	1	3：00～5：00	神明近辺のケース歩行

〔講習日程〕

講義回数	月	日	時間帯	講義内容
1	5	15	3：00～4：15	開講式とオリエンテーション
2	〃	26	3：00～4：30	光道園での医学（清水先生）
3	〃	29	3：00～4：40	人間の姿勢（鷲田先生）（山内先生）
4	6	2	3：00～4：45	人の生理学と障害概論（山内先生）
5	〃	5	3：00～4：30	学習と運動の心理学（淵辺先生）
6	〃	9	3：00～4：40	言語訓練と日常生活訓練（山本先生）
7	〃	12	3：00～4：40	感覚訓練と残存機能（柳田先生）
8	〃	16	3：00～5：40	実技・手引きの諸技術（園内）
9	〃	19	〃	〃・〃（園外）
10	〃	23	3：00～4：45	〃・一人歩きの防御（園内）
11	〃	26	〃	ファミリアリゼーションとオリエンテーション
12	〃	30	3：00～4：50	歩行訓練の歴史と今日の現状（真家）
13	7	3	3：00～5：00	白杖製作と実技・白杖による防御
14	〃	7	3：00～4：40	実技・白杖による防御とタッチテクニック
15	〃	10	3：00～4：45	〃・タッチテクニックの基礎と直線歩行
16	〃	14	3：00～5：00	〃・〃（園外）
17	〃	17	〃	〃・階段昇降と
18	〃	21	〃	〃・園内歩行と諸技術の応用
19	〃		3：00～5：00	夏季特別自主トレーニング　園近辺の歩行
20	〃			
21	〃			
22	8			
23	〃			
24	〃			
25	8	21	1：00～5：00	実技・園近辺の歩行
26	〃	22	〃	〃・〃

55	12	4	3：00～5：00	神明全道路での手引き
56	〃	8	9：00～16：45	修了歩行　　1班
57	〃	11	〃	〃　　2班
58	〃	18	3：00～4：30	指導員としての歩行訓練　Ⅰ
59	〃	22	〃	〃　　Ⅱ
60	〃	25	3：00～4：45	〃　　Ⅲ
61	1	8	3：00～4：30	〃　　Ⅳ
62	〃	12	3：00～	テ　ス　ト
63	〃	19	1：00～4：30	今日の歩行訓練(日本ライトハウス　芝田　裕一先生)
64	〃	22	3：00～	チェックリストについて
65	〃	26	3：00～	テストについて
66	〃	29	3：00～	チェックリストと反省会
67	2	2	1：00～	修了式，閉講式

〔実技内容〕

（手引きの諸技術）

光道園内，及び光道園附近の道路を使用し，基本姿勢，狭所の通過，開閉を伴ったドアの通過，階段昇降，着席の手引き技術の習得，及び方角，残存感覚の訓練

（一人歩きの防御）

上部防御及び下部防御，伝い歩きの技術の習得又方向の取り方の練習を園内各廊下にて行なう。

（ファミリアリゼーションとオリエンテーション）

ファミリアリゼーションの方法を説明した後総務課分室を使用し，ファミリアリゼーションする。その後，ファミリアリゼーションした部屋の図を描く。

防御技術，伝い歩きの技術を応用し，各職員の事務所を目的地とし，園内目的地歩行をする。

（白杖作成と白杖による防御）

白杖作成法の説明の後，各訓練生に合わせて，白杖を作成する。

園内各廊下を使用し，白杖による防御技術の習得。

（白杖による防御とタッチテクニック）

園内各廊下にて、白杖による防御技術の復習及び訓練棟廊下にて、白杖のふり方訓練。

（タッチテクニックの基礎と直線歩行）

訓練棟廊下にて、白杖のふり方の復習及び園内各廊下を使用しリズム歩行の訓練。

（タッチテクニックの基礎と直線歩行）（園外）

園内各廊下にて、リズム歩行の復習及び光道園近辺の農道にて直線歩行の練習。

※　光道園近辺の農道は舗装されており道も直線で、道と道の端の区別がはっきりしている事、交通量が少ない事で直線歩行訓練コースに選んだ。

（階段昇降とガイドラインテクニック）

園内各階段を使用し、白杖使用による階段昇降の練習、及び光道園近辺の農道を使用し、ガイドラインテクニックの練習。

（園内歩行と諸技術の応用）

白杖技術（タッチテクニック、階段昇降、ガイドラインテクニック、タッチアンドスライド）の各技術を使用し、園内目的地歩行をする。

歩車道の区別のない道路として、光道園前道路を使用し、車のよけ方練習。

（夏期特別自主トレーニング）

歩車道の区別のない道路の歩行

1.　タッチテクニック使用

2.　ガイドラインテクニック使用

3.　目的地歩行　光道園→小泉の神社

（園近辺の歩行）

1.　目的地歩行

　　光道園→加藤商店

　　光道園→小泉の神社→加藤商店

2.　歩車道の区別のある道路

神明一朝日線の道路を使用、タッチテクニック、ガイドラインテクニックを使用し、歩道の歩き方の訓練及び交差点の渡り方訓練。

（園近辺の歩行及び信号の横断）

光道園前道路と神明一朝日線の交差点にある信号を使用し、信号のある交差点の渡り方訓練（音響信号なので、音響と車の音を利用した）

（園から神明まで）

光道園前道路→神明一朝日線を通り、神明駅までを歩く。

- 歩車道の区別のない道路の歩行
- 歩車道の区別のある　〃
- 信号のない交差点横断
- 信号のある　〃

以上を含む応用的歩行、片道約50分かかった。

（アゼリア近辺の歩行、交差点の歩行）

光道園近辺に、歩車道の区別がなく、信号がない交差点の適当な場所がなかったので、神明一アゼリアのオリエンテーションを含め交差点の発見及び横断の訓練をする。

（神明近辺の歩行）

準繁華街の歩行とて、神明地区を選んで訓練する。準繁華街での白杖を使用した歩行、歩車道の区別のある道路での歩行、信号のある交差点の横断、マーケットでの買い物、目的地の発見法、援助依頼の方法及び今までの訓練の復習として、神明駅を起点とし、目的地をアゼリアにしたコースを３つ作り、各コースのオリエンテーションと３つのコースを使用した目的地歩行。

（モデル歩行）

指導員、訓練生の一つのペアに、神明→アゼリアの歩行訓練をしてもらい見学する。指導員として、訓練生の歩行の見方及び指導のやり方を考える。尚モデル歩行１回ごとに全員で指導員としての見方、やり方に関してディスカッションの時間をもうけた。

（神明近辺の歩行）

神明駅を起点とし、神明駅近辺にある光道園寮生のよく利用する店までの目的地歩行及び買い物訓練。

（バスの乗降訓練及びアゼリア内歩行）

光道園前小泉バス停より神明駅までのバスの利用。

小泉バス停にて、バスの乗り方訓練、神明駅にて、降り方の訓練、神明駅より手引きでアゼリアへ行き、アゼリア内にてチョークアップによる歩行の訓練、援助依頼の方法の訓練、エスカレーターの乗降訓練。

（電車の利用）

福鉄電車を利用、神明駅及び西鯖江駅に協力を依頼し、訓練する。

往　神明駅にて乗り方の訓練、西鯖江駅にて降り方の訓練。

復　西鯖江駅にて乗り方の訓練、神明駅にて降り方の訓練及び各駅のオリエンテーション。

（神明近辺の歩行）

24日・27日に予定した、ドロップオフにそなえ、神明駅からアゼリアまでの地域で、今までに歩いていなかった道路のオリエンテーションと歩行。

（ドロップオフ）

神明駅からアゼリアまでの地域で行なった。ドロップオフに使用する地域が狭く又条件的にわかりやすい事もあり、ドロップオフされたあと、アゼリアへ行き買物、神明駅へ戻るという方法をとった。全員、神明駅へ戻る事ができた。

（修了歩行）

ドロップオフをもって、今回の歩行訓練講習会の実技を終了としたが、地域的、時間的問題で、繁華街での歩行訓練はできなかった。そこで一応、体験的に修了歩行として、一日かけ福井での歩行をした。

光道園 —歩行→ 小泉バス停 —バスにて→ 神明駅

神明駅 —電車にて→ 福井駅前

福井の街の歩行（手引きにて）

食事等（アイマスク使用）

福井駅前 —電車にて→ 神明駅 —歩行→ アゼリアにて

買物 —歩行→ 光道園

以上をもって、昭和53年度、職員歩行講習会実技を終了した。

〔講義内容〕

職員研修会として、行なう為に、講習会講義の内容も出来るかぎり、光道園内でということもあり、講師をして頂くのも職員を原則とした。

（光道園寮生の実態）

保健衛生室室長　　清水　とみ子先生

1. 主たる視覚障害と他の障害について
2. 寮生の障害の実態
3. 日常に多い疾病
4. 日常での注意点
5. 歩行訓練を通して

（人間の姿勢と肢体障害）

指導企画室　　鷲田　陽子先生

1. 身体像の概念
2. 障害による身体像への影響

3. 日常生活での訓練（寮生の観察から）
4. 歩行訓練とのかかわり

（人の生理学と機能訓練）

更生指導課課長　山内　進先生

1. 障害の概念
2. 生理学、機能訓練について
3. 日常での訓練
4. 歩行訓練との結びつき

（学習の体系）

厚生援護課主査　瀬辺　信俊先生

1. 基礎学習と概念形成
2. 教材、教具の必要性
3. その使用での考え方
4. 歩行訓練との関連

（言語訓練）

指導企画室　山本　康江先生

1. 言語訓練の概念
2. 訓練の記録と考察
3. 歩行訓練との関連

（感覚訓練）

更生指導課　柳田　佳孝

1. 感覚とは
2. 残存機能との関係
3. 訓　練
4. 歩行訓練での役割

（歩行訓練の歴史と今日の現状）

指導企画室　真家　徹

1. 歩行訓練とは
2. 歩行訓練の歴史
3. 盲人歩行学
4. 今日の歩行訓練

（寮生の歩行訓練Ⅰ）

授産管理室　　中山　集次先生

1. 職業訓練課寮生との歩行訓練
2. 問題発見と解決
3. 歩行訓練の今後の目標

（寮生の歩行訓練Ⅱ）

柳田　佳孝　　真家　徹

1. 歩行プログラム
2. 寮生の歩行訓練
3. 障害から考えられる歩行訓練
4. 今後の歩行訓練

（光道園と歩行訓練）

東京水産大学教授
重複障害教育研究所理事長　　中島　昭美先生

1. 光道園というところ
2. 歩くということは
3. 運動訓練
4. 教育のコツ
5. 目との関係

（今日の歩行訓練）

日本ライトハウス歩行主任　　芝田　裕一先生

1. ライトハウスの指導カリキュラム
2. 今日の歩行訓練の歴史
3. 今後の歩行訓練
4. 質疑応答

〔レポートの作成〕

約10か月をかけて、全日程を終了した後、各職員講習生の方に、「1年を振りかえって」と「各課の歩行訓練」というテーマで、レポートを提出してもらい、まとめたものが、「昭和53年度・歩行訓練職員研修会報告書」として印刷され、全職員に配布された。

〔終りに〕

長期に渡る講習会が終了したが、振り返ってみると、たくさんの反省が得られたり、各課実情が違う中で、1年間、同一テーマによる勉強が出来たメリットも又大きかった。

反省材料として

1). 午後3時以降の2時間では、1日の単元が短かすぎた。

2). 週2回では、間が開きすぎ、集中的なものが良かったのではないか。

3). 実際の寮生指導というものも内容にあって良かった。

4). 歩行ばかりでなく、歩行を構成する要素（例えば、行動理論とか、医学的知識等）の講義がもう少しほしかった。

5). etc.

これらばかりではなく、沢山の反省があるのだが、各課違った日課の中から、貴重な時間をさいて参加して実施してきたわけなので、ある程度、わかっている反省ではあった。

しかし、この1年を通じ、人間が生活をする上で、立って歩くことの意味、重要性、そして障害から派生する問題をある角度から検討するということを集中的に、学べる機会であった。

沢山の反省の中から、今年度は（54年度）新たに、新しいメンバーの講習も考えられたが、53年度のメンバーによって、実際に寮生に指導・訓練をする中から、問題点を見つけ解決してゆける研究会を目差し、講習後のアフターケアを中心にしようということで、第2期の研修会が始まっている。

今年度から新設された「授産管理課」(将来の福祉工場へ参加するべく、各課から選抜された寮生を指導・訓練する課）の寮生を、1人受け持ち、週2回（月・火曜日午後3時以降）の訓練を担当することとなった。

授産管理課寮生29名の中から、歩行訓練を必要とする8名を選出し、1対1で、訓練をし、吾々3名が、フリーの立場で助言するというシステムである。

当然、この8名の職員は、自課寮生の歩行も実施している。

ということで、現在当園では、11名の歩行指導員が、寮生の歩行訓練にあたっており、障害の違う寮生の指導を通じ、統一した歩行訓練の基本の上に立ち、少しでも、重度重複障害者の安全で有効な歩行手段を研究できる機関の出発を見た。

当園の歩行指導は、皆それぞれの問題が一定せず、障害の程度も重度化しており、なかなか、いわゆる一般の歩行訓練がそのまま導入できるわけではないが、基本的柱を通じた訓練の中から、徐々に寮生おのおのに合った訓練へ移行していくと考えている。

その為にも、同一考えを（ベースとなるもの）柱としたものの中でお互い論議しあえる時間を今後とも充分生かしていきたいと考えている。